第3章 山形の産業ものがたり

県都山形

江戸期の山形は、城下町であり商人町でもありました。郡内農村で採れた米やベニバナ・青苧（あおそ）などを、大阪や京都の商人たちと売買し栄えました。100年以上続いている多くの老舗があるまちです。

明治以後は江戸期の商業の町の特質を受け継ぎ、政治・経済・教育の中心地として更に発展しました。現在も国や県の官公庁、新聞社、テレビ局、銀行、多くの企業が集まり、県都としての役割を担（にな）っています。

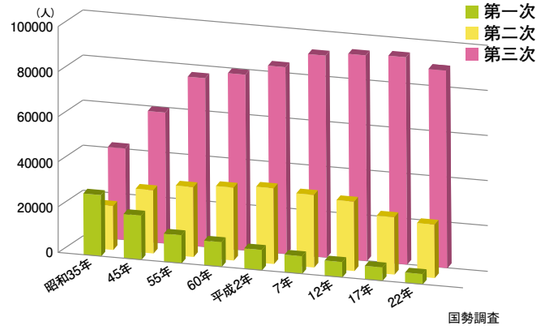
一次産業の激減

産業別就業者数の推移を、グラフ１・２でみてみましょう。この50年間で大きな変化があります。すなわち第一次産業（農業、林業、水産業）で働く人の割合は、昭和35年には27,250人で全体の31%でしたが、平成22年には4,665人の４％へと激減しています。

近年も同じ減少傾向にあり、農業で働く人が昭和35年に比べてたったの17%ということです。農業をやめる高齢者が多く、後を継ぐ若者が少ないからです。

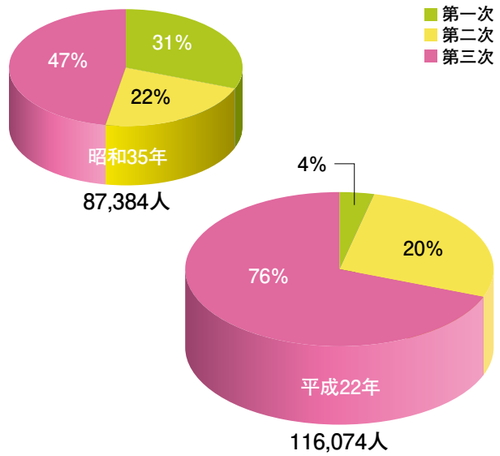
山形市で盛んな産業は何でしょうか。農業や工業、商業の様子について、調べてみましょう。

産業別就業者数の推移〈グラフ1〉



第一次産業： 農業、林業、水産業
第二次産業： 工業、製造業、鉱業
第三次産業： 卸・小売業、飲食・宿泊業、医療・福祉業、サービス業

産業別就業者数の構成比変遷〈グラフ2〉



YAMAGATA 山形セレクション YAMAGATA SELECTION ®

■高い品質
高品質な産品の生産、産品の厳選と安定供給
流通・販売における優位性の確保と品質管理の体制整備

■安全性・安心感への配慮
生産工程等における安全性の確保
消費者との交流等による信頼性の確保

■山形の自然、歴史・文化の継承
地域資源の活用

■山形の技術・技法の伝承
立地条件に適した技術・技法の維持向上

■環境への配慮
環境に配慮した生産方式の導入

三次産業の増加

それに比べて第二次産業（工業、製造業、鉱業等）は19,524人の22％から23,726人の20％とわずかな増加です。また第三次産業（卸・小売業、飲食・宿泊業、医療・福祉業、サービス業等）は、40,610人の47％から87,683人の76％へと倍増しています。

第一次産業が大幅に減り、第二次産業が増えているのは全国的な傾向ですが、山形市は第三次産業の比重が高くなっています。それは小売店や医療・福祉、サービス業で働く人々が多くなっているからです。

産業構成の変化に応じて、まちの姿や働く人々の生活がどのようになっているかを、農業・工業・商業の視点からみていきましょう。

ミニ知識 22

新しい産業 ― 第六次産業

最近、第六次産業という新しいことばが使われています。それは第一次産業者が、生産・加工し、流通・販売までおこなったり、第二次・第三次産業と連携し新たな産業をおこなう仕事です。

すなわち、これまで第一次と第二次・第三次と分かれていた仕事を、同一者がまとめておこなうことです。例えばなすやきゅうりを生産している農家の人たちが、工場を造り漬物として加工し、製品を販売所やインターネットなどで商売することです。逆に商いの会社が、農業と工業に手を広げて販売までおこなうことです。

この新しい産業が起きてきた訳は、次の４点が考えられます。

①地域で生産されたものをその地域で消費するという「地産地消」の動きが活発になったこと
②生産地から消費地まで高速道路とトラック運送など速い流通
③インターネットによる素早い情報伝達
④価格を安くするために卸売り業を通さない「直販・直売所」ができたことなど

みなさんの身近で、新しい仕事の「六次産業」を興している方やこれから会社を興そうとしている方が、きっといらっしゃいますよ。調べてみましょう。

なお第六次の「６」とは、「1次+2次+3次」のたし算と「1次×2次×3次」のかけ算でも、共に「６」になるからと、言われています。